

京都市立芸術大学

京都市立芸術大学・Kyoto City University of Arts

住所: [京都市西京区大枝沓掛町 13-6](#)

Address: 13-6 Kutsukake-cho, Oe, Nishikyo-ku, Kyoto 610-1197, Japan

WEB: www.kcua.ac.jp



【学部】

学科	募集人員
美術科	70名
デザイン科	30名
工芸科	30名
総合芸術学科	5名

美術学部

美術科					
	日本画	油画	彫刻	版画	構想設計
1年 (前期は総合基礎実技)	「日本画基礎A」日本画画材の性質や基礎技術について学ぶ/写生から日本画制作・模写の実習を行う	「油画基礎A」①「ワークショップ」様々な画材を使った実習から基本技術への理解を深める/②「ドローイング」完成された絵画作品に至る前の思考と試行/③「ペインティング」個人での絵画表現	「彫刻基礎A」観察を出発点として鉄や石、自然木、陶土等の実素材を使った制作過程を体験・習得する	「版画基礎A」ドローイング、イメージ構成などにより作品制作の基礎造形力を養う/「シルクスクリーン基礎」「木版画基礎」	「構想設計基礎A」柔軟な発想と独自の表現方法を身に着ける/フィルム撮影と現像・デジタルフォトグラフィー・映像・映画・サウンド・プログラミング・インスタレーション・工作機械などの基礎
2年	前期「日本画基礎B」野外での「地面を対象にした写生と日本画制作を通して日本画の基礎技術を学ぶ 後期は日本画専攻実技	前期「油画基礎B」Aと同様に基礎を学んだ後、制作室を使った展覧会を学生主導で企画する 後期からは3教室のいずれかを選択	前期「彫刻基礎B」立体的な表現に関する発想とその展開にあたっての着眼点について・制作に必要な加工技術と取り扱いについて学ぶ 後期からは「彫刻1」～「彫刻3」から1つ選択し履修	前期「版画基礎B」「銅版画基礎」「リトグラフ基礎」ほか「版画論」、「映像」(写真とデジタル画像処理の基礎)も並行して学ぶ 後期からは4版種から一つのメジャーワークショップ(工房)を選択	前期「構想設計基礎B」Aと同様 後期以降は個々の発想・興味・資質に応じた表現方法を学生が主体となって実験的に作り上げる
3年	3つの研究室から半期ごとに1つを選択し履修	3教室のいずれかを選択	「彫刻1」～「彫刻3」から1つ選択し履修・研究計画と自由制作	各工房での制作と合同合評会・特別講義など	2年後期と同様
4年	通年で一つの研究室を選択し、卒業制作を進める	3教室のいずれかを選択・卒業制作	「彫刻1」～「彫刻3」から1つ選択・卒業制作	制作に加え、文書講読のゼミや共同でのポートフォリオ制作・卒業制作を行う	表現を他者の文脈に関連させる批評性を身に着けることを目的とした1年間のプロジェクト演習

デザイン科			
	ビジュアルデザイン	プロダクトデザイン	環境デザイン
1年 (前期は総合基礎実技)	「デザイン基礎1」 一日一課題の制作(立体課題、レタリング、色彩課題、自然観察、製図課題)		
2年	前期「デザイン基礎2A」・後期「デザイン基礎2B」1～2週間ごとの課題制作によって、木工、写真、ペーパーワーク、空間造形、シルクスクリーンなどを習得		
3年	イラストレーション、ポスター、広告、タイポグラフィ、エディトリアル、パッケージ、テキスタイル、ファッションなどを複合した構成の課題	身の回りのものをテーマに、デザインの手法やプレゼンテーション方法、モノの仕組みや構造、加工法の理解および制作プロセス、新しい技術を用いた表現方法、発想力育成などを各方面から講師を迎えて学ぶ	長らく存続する環境の構築に貢献できる衣装の作り方を学ぶ/現場を訪れ、歴史的背景などを調べながら、求められている改善策を単修し制作を行う
4年	3年で培った基礎力をベースに個々の特性に見合った領域を見極めるカリキュラムを行う	自らコンセプトを設定して制作し、並行して論文としてまとめる	制作課題を通し、幅広い問題意識をもって、人間社会の継続にとって意味のある環境を作る力を身に付ける

工芸科			
	陶磁器	漆工	染織
1年 (前期は総合基礎実技)	「工芸基礎」陶磁器、漆工、染織の各専攻課程へ進むための基礎を習得し、それぞれの特色を知る		
2年	前期「陶磁器基礎 A」・後期「陶磁器基礎 B」 ろくろ・タタラ・手びねりなどの成形技術、呉須・鉄絵・化粧などの装飾技術の習得/釉薬実習での釉薬と焼成の基礎的知識の習得	前期「漆工基礎 A」・後期「漆工基礎 B」 デッサン、木地、きゆう漆、加飾、乾漆の学習をい重ね、それぞれの技法の要点を習得する	前期「染織基礎 A」・後期「染織基礎 B」 ろう染・型染・プリント表現・繊維素材実習・織物制作・繊維造形実習・技法研究を学んだ後、自由制作を行う
3年	前期は磁器の石膏型成形・ろくろ成形を学ぶ 後期は3コースに分かれて課題制作をすすめる	木工・きゆう漆・乾漆・加飾のうち希望のゼミを選択して実習を自主テーマによる制作を行う	より専門的な染織技法を身に着ける/プレゼンテーション、合評、レクチャー、工房見学、学外との連携プロジェクトなどを行う
4年	自主テーマによる各自の制作・卒業制作	卒業制作	各自の制作

総合芸術学科	
	総合芸術学
1年 (前期は総合基礎実技)	前期・後期「基礎演習 A」入門講座 後期は美術科基礎、デザイン科基礎、工芸科基礎のいずれかを選択し履修 講義科目では語学や専門に関連する科目をより多く履修
2年	前期「調査研究・企画演習」作品調査や研究技法・展覧会などの企画運営の方法の基礎を学ぶ 後期「基礎演習 B」「総合芸術学科基礎実技」インタビューを中心とした冊子とビデオの制作 「専門書講読」外国語の専門書などの読解力を養う
3年	3つのゼミのいずれかに所属し、各自の専門領域を定めて内容に即した指導を受ける/合同発表会では研究成果を発表し、全体で議論しながらそれぞれのテーマを探る/「合同演習」webサイトの運営や展覧会を企画運営する活動を通して実践的な力を養う
4年	各自のゼミで研究発表を行い、卒業論文にまとめる